

平成25年10月8日

各位

一般社団法人日本溶接協会
ぜい性亀裂アレストじん性試験方法原案作成委員会
委員長 栗飯原 周二

WESXXXX「ぜい性亀裂アレストじん性試験方法」案に対する パブリックコメント（意見公募）の募集結果について

拝啓

各位ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、（一社）日本溶接協会では、平成25年7月22日～平成25年8月30日迄、ぜい性亀裂アレストじん性試験方法原案作成委員会にて検討してきました日本溶接協会規格式案「WESXXXX ぜい性亀裂アレストじん性試験方法」に対する、パブリックコメントを実施しました。

その結果、期日迄に、38件のコメントが寄せられました。

ご協力いただきました皆様に、厚くお礼を申し上げます。

今回寄せられた意見及びそれらに対する考え方並びにその対応について、ぜい性亀裂アレストじん性試験方法原案作成委員会での審議の結果、別紙の通り取りまとめましたので、ご高覧の程お願い申し上げます。

敬具

記

【問合せ先】

- ・ FAX の場合：FAX 番号：03-5823-5211
（一社）日本溶接協会 規格委員会 事務局 宛
- ・ 郵送の場合：〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 4-20（溶接会館）
（一社）日本溶接協会 規格委員会 事務局 宛
- ・ 電子メールの場合：E-mail アドレス／ it-center@jwes.or.jp
（一社）日本溶接協会 規格委員会 事務局 宛

なお、電話によるお問合せには対応しかねますので、予めご了承願います。

以上

(別紙)

WES XXXX 「ぜい性亀裂アレストじん性試験方法」案に寄せられた意見に対する対応

注) ご意見及び理由並びにご意見に対する考え方・対応内容は、その主旨、概要を取りまとめて示しています。

整理番号	対応条項	提出されたご意見	対応方針(案)	理由
1	「脆性」とある箇所全て	「脆性」を「ぜい性」に改める。	拝承。	
2	「靱性」とある箇所全て	「靱性」を「じん性」に改める。	拝承。	
3	「伝播」とある箇所全て	「伝播」を「伝ば」に改める。	原案ままとする。	「伝播」が広く用いられている上、「伝ば」は意味を汲み取りにくい。
4	本文1ページ、箇条1の上から2行目	「および」を「及び」に改める。	拝承。	
5	本文1ページ、箇条1の上から2行目	「一様な応力」を「一様な引張応力」に改める。	拝承。	
6	本文1ページ、下から4行目(3.(2)項)	「概ね」を「おおむね」に改める。	拝承。	
7	本文2ページ、上から10行目(3.(8)項)	「亀裂分岐を生じた」を「亀裂分岐が生じた」に改める。	拝承。	
8	本文2ページ、上から16行目(3.(11)項)	「を言う。」を「をいう。」に改める。	拝承。	
9	本文2ページ、下から11行目(3.(16)項)	「試験体孔」を「試験体の穴」に改める。	原案ままとする。	「試験体孔」を一つの単語としたほうが分かりやすい。
10	本文2ページ、下から9行目(3.(17)項)及び下から7行目(3.(18)項)	「孔」を「穴」に改める。	原案ままとする。	9.に同じ。
11	本文2ページ、下から6行目(3.(19)項)	「切欠」を「切欠き」に改める。	拝承。	
12	本文2ページ、下から6行目(3.(19)項)ほか、「楔」とある箇所全て	「楔」を「くさび」に改める。	拝承。	

13	本文2ページ、下から4行目(3.(19)項)ほか、「錘」とあり「すい」と読む箇所全て	「錘」を「すい」に改めるか、「錘」に「すい」の振り仮名を付ける。	原案ままとする。	「落すい」、「重すい」はわかりにくいので、「重錘」、「落錘」を使用する。
14	本文3ページ、表1内の1番目の意味欄	「亀裂長さ、または、アレスト亀裂長さ」を「亀裂長さ、又は、アレスト亀裂長さ」に改める。	拝承。	
15	本文3ページ、表1内の4番目の意味欄	「試験片ひずみエネルギー」を「試験片のひずみエネルギー」に改める。	拝承。	
16	本文3ページ、表1内の5番目の意味欄	「合計ひずみエネルギー」を「合計のひずみエネルギー」に改める。	拝承。	
17	本文3ページ、表1内の13番目の意味欄	「温度、または、アレスト温度」を「温度、又は、アレスト温度」に改める。	拝承。	
18	本文3ページ、表1内の最下段の意味欄	「室温降伏応力」を「室温における降伏応力」に改める。	拝承。	
19	本文4ページ、上から1行目(箇条5)	「試験機」を「試験機及び打撃装置」に改める。	「試験機」を「試験装置」に修正する。	試験機と打撃装置をあわせて試験装置としているので、5.試験装置の文中を左記のとおり修正する。
20	本文4ページ、上から1行目(箇条5)	1行目の文に続き、「試験機は、試験体に引張荷重を載荷するために用い、打撃装置は、試験片に脆性亀裂を発生させるために用いる。」を挿入する。	拝承。	
21	本文4ページ、上から3行目(箇条5.1.1)	「試験体への載荷」を「試験体への引張荷重の載荷」に改める。	拝承。	

22	本文4ページ、上から2行目(箇条5.1)ほか、「試験機」とある箇所全て	「試験機」を「試験器」に改める。	原案ままとする。	「試験機」が一般的である。
23	本文4ページ、上から4行目(箇条5.1.2)ほか、「較正」とある箇所全て	「較正」を「校正」に改める。	拝承。	
24	本文4ページ、上から5行目(箇条5.1.2)	「もしくは」を「又は」に改める。	拝承。	
25	本文4ページ、上から8行目(箇条5.1.2)ほか、「または」とある箇所全て	「または」を「又は」に改める。	拝承。	
26	本文4ページ、箇条5.1.4の2行目	「試験体孔と試験機孔」を「試験体の穴と試験器の穴」に改める。	原案ままとする。	9.に同じ。
27	本文4ページ、箇条5.1.4の3行目	「揃えて」を「そろえて」に改める。	拝承。	
28	本文4ページ、下から7行目(箇条5.1.5)	「試験片面」を「試験片幅の方向」に改める。	原案ままとする。	試験片は面状であり、面の向きで誤判断することはない。
29	本文4ページ、下から2行目(箇条5.2.1)	「試験体」を「試験片」に改める。	拝承。	
30	本文5ページ、図2(a)	「重錐」を「重すい」に改める。	「重錐」を「重錘」とする。	13.参照。
31	本文6ページ、上から3行目(箇条5.2.2)	「重錐」を「重すい」に改める。	「重錐」を「重錘」とする。	13.参照。
32	本文6ページ、図4の標題	「圧力受け固定方法」を「圧力受けの固定方法」に改める。	拝承。	
33	本文7ページ、上から2行目(箇条6.1)	「試験片形状 標準試験片形状」を「試験片の形状 標準的な試験片の形状」に改める。	拝承。	
34	本文7ページ、図5の標題	「標準試験片形状」を「標準的な試験片の形状」に改める。	拝承。	

35	本文 8 ページ、図 6 の 標題	「推奨される試験片切 欠き部形状」を「推奨さ れる試験片切欠き部の 形状」に改める。	拝承。	
36	本文 8 ページ、箇条 6.2	「タブ板およびピンチ ャック形状 タブ板およ びピンチャック寸法」を 「タブ板及びピンチャ ックの形状 タブ板及び ピンチャックの寸法」に 改める。	拝承。	
37	本文 10 ページ、図 8 の標題、及び、11 ペ ージ、図 8（続き）の 標題	「タブ板およびピンチ ャック形状の例」を「タ ブ板及びピンチャック の形状の例」に改める。	拝承。	
38	本文 17 ページ、箇条 8.1の(6)項	「試験荷重まで載荷す る。目標荷重の載荷は、」 とあるが、「試験荷重」 及び「目標荷重」につい ての説明がなく意味が 不明なので、その説明を 入れる。	「所定の試験荷重まで載荷 する。所定荷重への載荷 は、」に修正する。	「試験荷重」の意味は文意か ら明らかであるが、「所定の 試験荷重」とすることでより 明確にする。